

From
投稿口一ナ

投稿コーナーに寄せられたみなさんの意見・感想を大公開！「同じこと考えてる」とか、「まったく違うなあ」とかいろいろ見えてくることもあるかも？！

前回のワンテーマ投稿

あなたの気分転換の方法は？

■のんびりして…■

- *寝る
(大の字になって)
(布団の上で転がる)



- * 音楽を聞く
- * 本を読む
- * 独りになる

◇「寝る」「本を読む」人が多數派でした。
体とココロを同時に休めるということかな。

■こんな方法もあり■

- *ゲームをしながらお菓子を食べる
 - *気にしないようにしようと思う
 - *庭の花を眺める
 - *空を見る
 - *たこ公園一周！
 - *絵を描く
 - *歌をつくる
 - ◇自然や芸術に触ることで、心が和らぎますね。



期間：2007.12～2008.4

■アクティブに! ■

- *友だちと遊ぶ
 - *おしゃべりする
 - *ひたすら歩く
 - *歌をうたう
 - *バスケをする

○体を動かしたり友だちと騒いだりして、
イカセ二七をなくしてしまったばせ!



投稿してくれた
みなさん
ありがとう
ございました♪



ワンテーマ投稿『あなたは犬派？猫派？それとも…？』募集中！

現在、犬派優勢です。負けるな猫派！好きな理由も教えてね。「ワタシは〇〇〇が好き▼」な主張もぜひどうぞ。ほかに、フリー投稿も随時募集中！何か思いついたことがあったら投稿してください♪用紙はティーンズコーナーと児童コーナーのテーブルに、投稿用のポストはティーンズコーナーの展示スペースとカウンターの2ヶ所にあります。みんなからの投稿はだいたい2週間ごとに展示していますのでお楽しみに♪

* ティーム
シターア、彼の即
はいががでした
か? 次回は「秋
選」に参加しま
しょう。

初めて
シターゲル甲板から
参見するにじる
なりました。お
はさんでのい
だよ。(八ロ)

四つハ
せひめがひとで
す。裏どじ園は
しに器とのて
要は室内で読書
三部曲(ねや)」
先端を
着手で、船橋で
は毎年実施は
ド兼らうござ
おかものせりゆ
おじ活版開拓者
を説く活動も
れや。(二ロ)



2008年7月

ヤングアダルト通信 vol.9

習志野市立大久保図書館

習志野市本大久保 3-8-19

TEL 047-475-3213

<http://www.city.narashino.chiba.jp/toshokan/index.html>

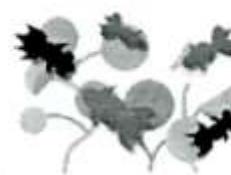


今日の夕飯は

ティーンズコーナー BOOK NABI

2

夏!



それぞれの《夏》

夏休み、夏の夜、夏祭り…。夏って、ナニかが起こる予感がしませんか？幼稚園から高校生まで、それぞれの夏の出来事を描いた本たちをご紹介します。

『ぼくとひかりと園庭で』 石田 衣良／著 徳間書店 幼稚園

—「この世界に生きるすべての恋人たちには、かならず試練があたえられるのです」—
7月の夜。不思議な白い光に満ちた幼稚園の庭で6歳の女の子と男の子は“夜あけの庭の園丁”に導かれ恋の不思議と世界の残酷さに出会います。そして3つの試練をくぐり抜けた時…。
繊細な銅版画の挿絵も美しい1冊です。

『アメンボ号の冒険』 椎名 誠／著 講談社

この作品の舞台となる花見川は、印旛沼を水源とし千葉市花見川区を縱断するように流れています。夏休み、小学5年生の椎名少年は遊び仲間の4人組でこの川をいかだで下る計画を立てました。廃材を集めて作り上げたいかだ“アメンボ号”に乗り込んだ4人。海まで無事にたどり着けるでしょうか？表題作のほか、秋と冬それぞれの少年たちの冒険記が収録されています。

『でりぱりいAge』 梨屋 アリエ/著 講談社 中学生

勉強してそれなりの高校へ行って、大学へ行って就職をして…その先になにがある?わからないけど、あとで必要な時のために今のうちにできることを精一杯やっておかなきゃいけない。でも、あとって、いつ?なんのために?一家族関係や友情、進路に悩む14歳の真名子に共感する人も多いのでは?古びた家の庭に干された洗濯物の描写が印象的。初めは、そのかろやかな洗濯物に包まれたいと願う真名子ですが、その家で不思議な青年と話す夏の日々を経て、自分が大切なんだとかを包みこめるような存在になりたいと思うようになります。

『白いへび眠る島』 三浦 しをん/著 角川書

高校最後の夏休み。古い因習の残る辺島に帰郷した悟史は、13年ぶりの大祭で島じゅうが賑わう中ある噂を耳にする。言うもはばかられる怪物“あれ”が出たというのだ。悟史は島の風習である“持念兄弟”的光市と共に噂の真相、そして島に隠された秘密に迫っていく…。“持念石”や神社の神蹟・神宮家に伝わる“隕付き”の伝説など、不思議な世界にドキドキ。

『青空のゆくえ』 清水 志穂／著 メディアファクトリー

主人公の鈴木貴子は中学3年生。唯一学校で安らげる場所は屋上。現在の唯一の学校の友だちは高橋正樹。その正樹が引越しするって…しかも1ヵ月後。隠し事をしないという約束を破った憤りを感じつつも、正樹の“やり残したこと”をやり遂げさせてあげないと貴子が考案出した時、貴子の周りも変わり始める…。

衝撃的な何かが起こるわけではないけれど、この頃にみんな一度はぶつかる友人関係の悩みや恋心などがさらりと描かれていて、共感できる物語。



『ジョナさん』 片川 優子／著 講談社

進路が決まっていない不安の中、高校2年生の夏休みを過すチャコ。ある日、犬の散歩中に出会った年上の男の人に一目惚れ。恋に悩んだり、友だちの進路に気をもんだり、自分の家族関係に苛立ったり…そんな揺れ動く気持ちの中で、友だちに悩みを打ち明け、意見をぶつけ合いながら、自分が本当にしたいことを見出していく。



『蛇行する川のほとり』 穂田 陸／著 中央公論新社

“ひとつの昔話をしよう。もはや忘れられた話、過去の色褪せた物語。平凡で退屈なある夏の話。私たちの愛情について。私たちの罪について。私たちの死について。”一高校生の大人でも子供でもない年頃の気持ち。愛情と表裏一体のある意味では共犯者の残酷な気持ち。夏の川の水面に反射する光のようなきらきらした時間にそぐわない、封じ込めたはずの暗い過去の記憶。その真実が解き明かされていきます。



my favorite

talk 3:// 
STUDIO GHIBLI